



B2

ニュースレター

2019/3/29

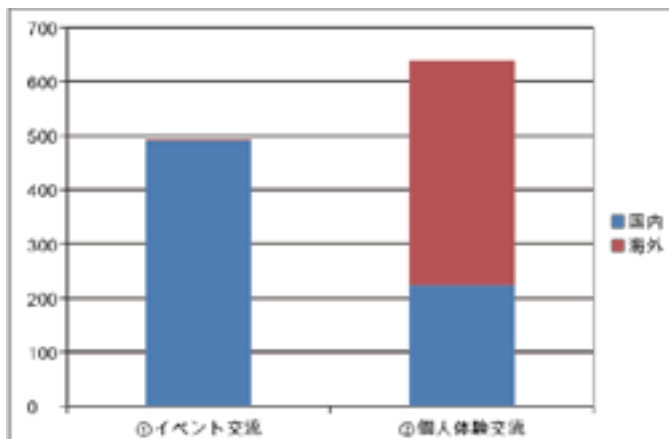
「報奨旅行で黒松内を訪れたフィリピンの皆さん」 2018.5.26

～次回の協会主催イベント～
黒松内岳山開き

体験商品販売売上 対前年 60%増

今年度の体験商品販売実績だが、冷夏による農作物の不作、お盆期間中の大雨による河川の増水、胆振東部地震などの影響で、収穫体験や釣り体験にキャンセルが生じ、昨年度と比較し、7月、8月、9月が微減となった。しかし、東南アジアからのインバウンド需要が伸び、全体の集客数では昨年度の509名から638名と対前年比25増となった。一人あたりの消費単価及び滞在時間については、前年と比較し横ばいとなり消費単価が@6,416円、滞在時間が@300分だった。今後は、宿泊型観光の需要を伸ばすべく、町内外の観光関係者と方策を考えていく必要がある。これまで課題となっていた体験指導や地域案内を行うプレイヤーの増員においては、町が地方創生観光地域づくりの予算を活用、東京の財団法人まちむら交流きこうが主催する「地域案内人育成講座」黒松内校を開校した。その結果、町内及び近隣町からの受講者19名のうち

13名が当会の地域案内人登録をすることとなった。今後は、外国人客対応が可能な案内人の育成を更に進めていかなければならない。



平成30年度 観光協会主催・共済企画による町内入れ込み客数
①イベント参加者数 493名 ②個人向け体験商品参加者数 638名

(事務局・本間)

NAGI' S キッチン 文：田村渚

今回のテーマは春らしく、いちご。

黒松内はまだちょっと寒いけど、いちごのパンドームケーキで春を先取り！ぜひ道の駅のパンを使って作ってみて下さい。 ページ2

じり通信 No.11 文：山本竜也

全道的に停電が続いたあの日、筆者は黒松内でカクジュウ佐藤家と黒松内のつながりを探すために、かつて祖父がカクジュウ佐藤家の帳場で働いていた黒羽商店を訪ねた。 ページ3

菅野真司の図書統括 文：菅野真司

筆者が小学生時代買って今なお使い続けるシャープペンシルを通して、モノを使い続けること、機能美について考える。 ページ3

My ころまつないフォトコンテスト

結果発表

1年間インスタグラムを通じて開催していた#My ころまつないインスタフォトコンテストの結果発表！素敵な作品が揃いました。 ページ4

<<協会主催・協力イベント>>

黒松内岳山開き

6月2日(日)

次年度最初のイベントは…毎年恒例、観光協会主催の黒松内岳山開きです。昨年同様今年も申し込みが必要な予定となっております。詳細が決まり次第チラシ等でお知らせいたしますので、続報をお待ち下さい。

2019年 冬のフットパスイベント 中央分水嶺を歩く第2弾 レポート

文：ノースランド 辻野治子

3月10日(日)黒松内冬のフットパスが開催されました。

今年は昨年歩いた中央分水嶺のコースをさらに長万部方面に繋げたコースを歩きました。中央分水嶺とは、地理学用語で稜線(山の尾根)に降った雨が川に流れ、その川が最後に流れつくのが日本海か?太平洋か?の境目となる稜線のことを言い、北海道から九州まで約4500kmにわたり繋がっています。黒松内町の南端にはその中央分水嶺が通っており、日本で一番中央分水嶺が海に近づいている区間(海まで約300m)として、有名です。

今回のイベントに際しては黒松内フットパスクラブと3回の調査や下見を行ない本番に備えましたが、当日は見事晴天となりました。昨年の参加者(57名)より多い60名の参加者が右側には日本海にそそぐ朱太川水系来馬川の源流、左側の崖下には太平洋が広がる約5kmのコースを歩きました。今年の間は鼠の鼻山や静狩1峰(共に仮称)等の山々を越えていく健脚者コースでしたが、参加者の皆さんは難なく越えていきました。噴火湾は凧で、太陽の光でキラキラと輝き、周りの山々は春の様相となっていました。ゴールの駐車場にはふぁーむいん富田さんの美味しい甘酒のサービスと今田農場さんの焼き芋と雪中キャベツの販売もあり、大盛況でした。

この中央分水嶺コースは登山道がないため雪のある冬しか歩けません。冬ならではの特別な体験になったのではないかと思います。そして今回もグルメフットパスに続き大盛況のイベントとなり嬉しい限りです。次のイベントはどこを歩こうかと今から考えております。



NAGI'S キッチン



今回のレシピは、今が旬のイチゴを使った“イチゴのパンドームケーキ”です。見た目のインパクトと、華やかさは、春のお祝い事にピッタリ。もちろん美味しさもバッチリ。ぜひ、道の駅くろまつないのパンを使ってつくってみてください!

材料 (直径15cmのボウル一台分)

- ・サンドイッチ用パン 8枚
- ・イチゴ 200g

—イチゴクリーム—

- ・生クリーム 300cc
- ・イチゴジャム 大さじ2
- ・砂糖 大さじ1

—飾り付け用—

- ・アラザン 適量



作り方

- ① サンドイッチ用パン4枚を半分に切り、さらにそれを斜め半分に切る(外側用)
- ② 残りの4枚は放射状に4等分に切る(内側用)
- ③ イチゴはヘタを切って半分にする。
- ④ ボウルにイチゴクリームの材料を全て入れ、柔らかいツノが立つくらいまで泡立てる。
- ⑤ 15cmのボウルにラップを敷き、外側用のパンをボウルに敷き詰める。その内側にイチゴクリームを薄く塗りひろげる。
- ⑥ ボウルに残りのイチゴクリーム1/3量と半分に切ったイチゴ1/2量を混ぜて入れ、平らにならす。その上に②で放射状に切った内側用のパンを敷き詰める。
- ⑦ 残りのイチゴクリーム1/2量と残りのイチゴをボウルに入れて混ぜ、平らにならし、内側用のパンを敷き詰める。出来たらラップをして冷蔵庫で3時間以上冷やす。
☆残ったイチゴクリームも冷蔵庫で冷やしておく。
- ⑧ 器に取り出し、残りのイチゴクリームを表面にスプーンで塗る。お好みでアラザンを飾り付けて完成!

じり通信 No.11 「停電の日の取材」

文：山本竜也

昨年9月6日、地震に伴う大停電のさなか、私は、純米酒「朱太川」を売る黒羽商店の主、黒羽修平さんに会いに来ていた。信号は消え、テレビもみられない。なにが起こっているのか分からない状況だが、目的としていたカクジュウ佐藤家と黒松内の関わりについて何らかの成果を得て帰りたいかった。

「こんな日にすいません」「いやあ、もうしょうがないよ。この状況を楽しんでるんだ」

暗い店のなかで、あきらめたような笑顔を返してくれる黒羽さんに問う。

「歌棄のカクジュウ佐藤家と黒羽さんが関係あると、北村さん（町内の郷土史家）に聞いたのですが」

「そうだよ。うちは、じいさんが福島県の田舎から移ってきて、カクジュウの帳場をしていたらしい。ただ、働いたのは数年だけで、給金を元手にして、黒松内の沢田利吉の店を居抜きで買ったの」

沢田利吉とは、黒松内出身で衆議院議員を務めた当地方の名士である。

「どんな商売をしていたのでしょうか？」

「精米、それに味噌醤油の醸造だね。でも、数年働いただけでしょ。それで大きな店を買えたというのが不思議だねー。

じいさん、いくらか抜いたんでないか（笑）」

「いや、そんなことはないでしょうけど、それだけ鯨場というのは景気が良かったのでしょうかね」

1930年（昭和5）に発刊された『寿都外三郡大観』によると、初代の黒羽儀平さんは1880年（明治13）生まれで、1895年（明治28）に北海道に渡り、歌棄郡有戸村の佐藤栄右衛門に仕え、1903年（明治36）10月に黒松内村で独立、雑貨荒物米商をはじめたという。その跡を継いだ二代目が黒羽さんの父の康平さん、現在は三代目となる。

「私が小学校一年生の頃まで、醤油の醸造だけは続けていたんだよ。昭和37年頃かな。醸造しても、味のむらがあるから、味の素とカラメルを入れて調整する。かき混ぜる仕事は子どもでも出来たから、手伝った。一本一本ブラシを差しこんで、醤油の一升瓶を洗ったことも忘れられないよ。いまも一升瓶と離れられない商売だわ（笑）」

話を聞いていると幼子を連れてお母さんが買い物に来た。電気は消えていてもここには日常の空気が流れていた。



↑黒羽修平さん



↑1918年（大正7）の黒羽商店

菅野真司の図書統括

文：菅野真司（かんのしんじ） shinjikanno@gmail.com

「禅とオートバイ修理技術（上・下）」 ロバート・M・バーシング 著 ハヤカワ文庫

3月小学校の頃に買ったシャープペンシルを、今でも使っている。たしか当時の値段は120円。スヌーピーの柄だったような記憶があるけれど、今となっては全部消えてしまい、ただのクリーム色のシャープペンシルになっている。小学校ではシャープペンシル持ち込み禁止だったので自宅で使い、中学では3年の授業を共にし、高校受験にも使った。高校に入ってからでも使い続け、大学受験勉強でも本番の受験でも使った。

大学に入ると、このシャープペンシルと自分との縁を意識するようになっていた。でも、何の変哲もない、近所の文房具屋で買った安いシャープペンシルを長い間使い続けていたことに深い理由はない。強いて言うならば「壊れなかったから」使い続けてきただけのこと。今も手許にあるこのシャープペンシルとの付き合いは35年以上になり、「自分にとってだけ、価値のあるもの」になった。

道具や機械にちょっとした手をかけながら、長く使うことが好きだ。構造を知り、使い続けることで起こる変化を知り、それに対する対処を考え、長く自分の手許においておくと、「モノに対する愛情」が「信頼関係」に変わる時が来る。

だから自分のまわりには、シンプルな道具が多いように思う。シンプルなものは、構造が理解しやすく、壊れにくい。シンプルさ＝道具の性能、と言ってしまってもいい。コンピューター制御でものすごく速いオートバイは、もういない。どんくさい単気筒エンジンにキャブレターでガソリンを吸い込むような、そういうシンプルな構造こそが、機能美というものだ。

My くらまつないインスタフォトコンテスト 結果発表！

2018年の春から1年間、インスタグラムを通じて開催していただくくらまつないのフォトコンテストがついに締切、黒松内写真倶楽部の皆さんの厳正な審査を経て各賞が決定いたしましたのでこの場を借りてご報告いたします。

今回のコンテストでは写真の綺麗さ、上手さだけではなく、「この場所に行って自分も写真を撮ってみたい」と思わせる新たなスポット探しを目的として、写真倶楽部の皆さんに審査していただきました。100枚を超える応募作品の中から大賞を始め全8作品が選出されました。大賞も候補が複数あり、頭を悩まされながらの審査となりました。



←大賞 trailmixr さんの来馬川での釣りの写真

★★★黒松内写真倶楽部会長からグランプリ受賞作品へのコメント
「木々の緑と美しい川の流りに包まれながら、のんびりと黒松内の自然を体感する楽しさを現わし、この場所に行ってみてみたいと思わせる作品でした！」

大賞には賞金2万円と歌才自然の家のペア宿泊券が贈呈されます。



←準グランプリ p_i_r_i_c_a さんの冬の東山からの眺め

★★★黒松内写真倶楽部会長からグランプリ受賞作品へのコメント
「冬の厳しさの中にも黒松内の生活や美しさを感じられる作品でした！」

準グランプリにはふぁーむいん富田さんのペア宿泊券が贈呈されます。
大賞、準グランプリともに、商品の宿泊券を利用して、ぜひまた黒松内で素敵な写真を撮っていただきたいと思います。



春賞 eitobori さん
ギンリョウソウ



夏賞 1967iwana さん
黒松内駅



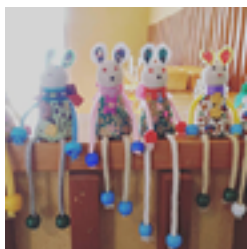
秋賞 kanakichisanpei さん
自然は面白い



冬賞 yumlabyrinth さん
リスの運動会



観光協会会長賞 maruhana_087 さん
toit vert



町民賞 tamunaagi さん
パン屋の美脚美人

その他の賞の受賞作品は以上です。各賞の受賞者には町内の各協賛店より素敵な景品が届きます。各賞の賞品の詳細につきましては黒松内町観光協会のウェブサイトをご覧ください。ご協力いただいた協賛店の皆様、誠にありがとうございました。

(My くらまつない Instagram フォトコンテスト企画担当・澤田)

観光協会 HP にて「B2」バックナンバーがご覧になれます。www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡下さい。

発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2019年3月29日 次回発行予定は6月末

TEL/FAX：0136-72-3597 MAIL：bunatatourism@gmail.com

デザイン・レイアウト / 澤田
編集 / 本間